大仙市立中仙小学校　学校報

輝く ひとみ

令和２年度 第２５号
令和２年７月３日

学校教育目標　　ゆめにむかって えがおいっぱい みんなでチャレンジ

＜体調に気を付けて、残り２週間を＞

７月に入り、前期前半の学習も大詰め

今週から７月に入り、夏休みまで残り２週間となりました。寒暖差とジメジメ感で体調を崩しやすい時期です。十分にお気を付けください。今週からプール学習がスタートしました。低温気味の天候ですが、少しずつ体が慣れていくと思います。これまで、当たり前に行っていた学習の仕方（ペアで補助し合う）が、感染症予防のためにできない状況にあります。１年生は、水やプールに慣れるために高学年とペアになって水遊び等を行っていたのですが、これも控えています。熱中症予防を踏まえたコロナ対策も進めています。本校は普通教室にエアコンが設置されているので、学習中のマスクの着用はそんなには大変なことではありません。問題は外での活動の際です。状況によっては距離をとってマスクを外すなども考えていきたいと思います。

７月１日　２年生→

学校に「うさぎ」がやってきた

火曜日、北長野にお住いの戸堀和広さんがうさぎの学習で、二年生を訪れました。中仙といったら桜とドンパン節、そしてジャンボウサギ。二年生は二匹のウサギと出会い、おっかなビックリ。十四日までの二週間の短い期間ですが、愛情を注ぎ飼育体験をします。

４年、５年で出前講座を行う

火曜日は５年生、水曜日は４年生で、「保呂羽山少年自然の家」から指導の先生を招き、出前講座を行いました。コロナ感染症のために実施できなくなった宿泊体験学習の内容を変えて、校内で実施したものです。前半は、ＰＡ（プロジェクトアドベンチャー）と呼ばれる活動です。このＰＡは、自然の家が積極的に勧めている活動です。そのテーマは２つ。「みんなが楽しい」「友達・自分を知る」こと。学級づくりにぴったりの活動です。後半は枝木や木の実を使った工作づくりです。グルーガン（白い個体を溶かして、物と物を接着させる工具）を使って、部品を接着させていきました。自然のものを材料にした工作は、なぜか心が安らぎますね。

また、これらとは別に、５年生は午後からダンスを行いました。講師は、大曲に店を構える「フィールド」の山﨑由貴さんです。子どもたちは、山﨑さんの動きと声に圧倒されながら、ほぼ１時間びっしり踊り続けました。終わったあとの様子には、やり切った感があふれていました。

その１３

本校の歴史をたどる

このコーナーは、本校のこれまでの半世紀をたどり、次の時代にに向けてエールを送るものです。

昭和４５年からスタートした校舎建築ですが、工事は順調に進んだようで、その後、広報への記載は１年余りありませんでした。そして、翌４６年５月号の広報に次の記載がありました。全三期に分けて行われている工事も、ほぼ折り返し地点ということでしょうか。

１９７１年（昭和４６年）５月号　３ページ目

中仙小新築（二期）十月完成

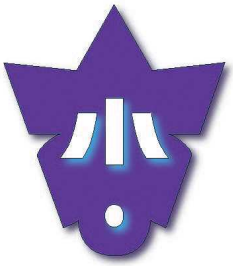
㈱佐々木組と随意契約

中仙町臨時議会は５月４日開かれ、中仙小学校新築第二期（特別教室、管理棟など）本体工事請負い契約締結についての議案一件が審議され可決されました。

はじめ当局より、議案提出理由について、県内の大きな４業者から本体工事の見積書をとった結果、町の予定価格に合った株式会社佐々木組と随意契約を結ぶことにしたもので、議会の議決をお願いしたいと説明がありました。

請負代金は五千百五十四万八千円で、昭和４６年５月６日に着工し、昭和４６年１０月３１日に完成するものです。

工事は職員室、校長室、放送室などの管理棟、それに家庭科室、図書室、理科室、図工室の特別教室に、渡り廊下など鉄筋二階の校舎ができあがり、残すは体育館だけとなります。第二期の給排水暖房設備工事と電気設備工事は、請負代金が一千万円以下であるので、議会の議決は必要としませんが、給排水暖房設備工事は秋田市の大民施設工事株式会社が七百八万一千円で、電気設備工事は東北電気工事株式会社大曲営業所が五百三十三万五千円で、それぞれ請負契約を締結しています。

第二期工事はほぼ半年の工期です。工事のことにはまったくの素人ですからよく分かりませんが、かなり急いでの工事ではないでしょうか。統合しても、それぞれ別々の校舎で学ぶ子どもたちに、早く新しい校舎で学ばせたいという思いからでしょうか。

いよいよ校舎建築も佳境に入ってきましたが、すでに校章は公募により決まっていました。豊岡柏木田にお住いの佐藤幸喜さんの図案を採用し、多少の手直しをして決まったようです。説明では、「なかせん」の「な」を図案化し、上部真ん中の鋭角の部分は「理想」と「勤勉」、左右の羽の部分は「大志」「発展」、その下左右の部分は「努力」と「忍耐」、下部の円の部分は「友愛」と「和」を表しているそうです。